

# 圏央道舗装工事で試行

環境省が取り組む電動建設機械普及促進の一環で、電動ローラーを使うことが分かった。NEXCO東日本関東支社が発注し、大成口チェックが施工する「首都圏中央連絡自動車道成田舗装工事」の現場で、14日から28日までの期間

## 施工＝大成口チェック

に、路盤準備工や下層路盤工などの作業で電動ローラー（3社で計5台）を試行使用する。また、一部の電動ローラーは、HVO（水素化処理植物油）焚き発電機による給電方法を採用する。

電動ローラーによる試行作

## 環境省 電動ローラーは初めて

業に当たり、NEXCO東日本と大成口チェックの協力を得た。環境省がかかる、さまざまなケースでの電動建機による試行作業は、これまでミニショベルの使用がほとんどだったが、電動ローラーでの試行作業は初めてとなる。

試行使用する現場は、圏央道（大栄JCT～松尾横芝IC）事業に伴う、大栄JCT（国道296号IC（仮称））間の舗装工事。工事場所は千葉県成田市（多古町）。使用建機は、酒井重工業の電動ハンドガイドローラー「HV620evo」、電動油圧方式コンバインド振動ローラー「TW354evo」。

給電方法は、小規模の電動ハンドガイドローラー2台が

バッテリー交換式、ほかの3台がHVO焚き発動発電機と

組んでる。新潟県津南町の除雪作業などでも電動建機を

使う予定だ。環境省は今後も適用可能な現場や普及促進に

向け必要な政策を検討していく。

試行作業によって運用管理の状況を把握するとともに、

電源関係の課題などを整理すく。

試行作業後には、電動ローラーの使用者から從来建機と比較した場合の使用感やメリット、デメリットなどの聞き取りを実施する。

環境省による電動建機の試験使用は、2024年度に環

境省直轄公園管理工事で始ま

った。25年度に入り、直轄工

事に加え、神奈川県内での団体による海岸清掃業務や自治

体発注工事で試行作業に取り組んでる。

建設通信新聞